

発言者	発言内容
参加者 <在籍保護者>	白紙しろや、白紙。とりあえず白紙で帰れ。はっきり言うておかしいわ。この手順というのにだまされるところやったわ。適正化なんかうそやんか、オブラートに包んできただけやん、住民だますために。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	去年の議論の中で、一つは児童推計の取り扱い、子どもたちが増えているというようにご指摘もいただいたということと、プロセスがわかりにくいというご指摘があって再検討させていただきました。先ほどからお伝えしているように、方針については変わっていない、それはもちろん中長期的に見ると川西市の子どもが現状維持できるという楽観的な考え方には至らないということ。また、統合のメリット、デメリットを考えたときには、現時点においてはメリットのほうが大きいという教育委員会の判断しておりますので、現時点においてはそこは変わっていないというのはお伝えさせてもらっているところです。
参加者 <在籍保護者>	それは、緑台小学校の子にとって何がメリットなんですか。保護者がほんまにそう思えるかを説明してよ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	短期的に言うと、緑台小学校は複数学年を維持できるのかもしれないんですけど、中長期的には小規模化していくということであれば、緑台小学校と陽明小学校をどうしていくのかというのをお話しさせていただきたいというふうなことで。
参加者 <在籍保護者>	メリットは何ですか。先ほどメリットで言いましたけど。緑台小学校の人員が足りてるほうをわざわざ向こうにしてまでのメリットを教えて下さいよ。保護者に対して。緑台小学校に通わしている保護者の子、人員足りてるわけでしょう。今のところ34年でも。それで足りてるのに緑台小学校を廃校にして陽明小学校に行かせたほうがいいメリットを言ってください。そうやってメリット、メリット言うんやったら。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	一つは、単学級にならずとも、小規模化したときに、もう少し一定規模の人数のほうが多様な考え方に触れられるとかそういったこともあるかなと思いますね。
参加者 <在籍保護者>	それは、表面的な話でしょう。そんなんは。そうやったらいいとは限れへんでしょう。山形の学校だって単学級でやってますよね。全国学力レベルで残ってますよね、今。知ってますよね、それ。データ出てますよ。

中西総務調整室長 兼教育推進部参事	おっしゃられてるようにメリット、デメリット双方ございます。
参加者 < 在籍保護者 >	メリットを言って言うてんねん。メリットってないんですか。
参加者 < 地域住民 >	これ録音もちゃんとしてるわけですから、持って来てください。
参加者 < 在籍保護者 >	それ別にメリットは感じませんが。
参加者 < 在籍保護者 >	すみません、在校生の保護者です。ちょっと座って失礼します。先ほど皆さんのおっしゃることと本当に一緒なんです、まず今日いただいたこの資料、志波課長の言葉を信じるならば、統合ありきではないとおっしゃっていただきました。ということは、これは統合をもとにつくられた手順書だと思うんです。しかもこれは未確定であるとおっしゃってましたんで、これは破棄したいです。これをこのまま持ち帰っているところでもって回覧になってしまうと「あ、これ統合だね」と、統合を基準に考えて教育委員会は、市は進んでいるというふうに誤解されてしまいます。今日の今日まで、この説明会行われるまでの間に、やっぱりいろんなうわさが、尾ひれはひれもついて住民の間でも回っています。陽明小学校が残るという話もまだ出ています。でも8月でしたか、すべて学校の選定の時期も白紙に戻すと、再検討するという話を私たちは直に聞いてますけれども、やっぱりこういう会場に足を運んでくださる住民の方というのは、本当にこのグリーンハイツの中では一部の方だけです。100人が100人みんな来ている、16万の方が来ていらっしゃるわけではありません。だからやっぱりいろんなうわさが流れ出てしまっていて「いや、教育委員会の方はこんなこと言ってなかったよ」って言ってもやっぱりいろんなうわさが回ってしまうんです。だから今回これは一旦外に出てしまうと「わっ、まだ統合をもとにこれ考えてるよ、教育委員会は」ということなので、私これはもう破棄したいです。志波課長がおっしゃるように、これは未確定であるということを信じるならば、破棄させてください。 私、やっぱりずっと心配だったので、市役所の議会の傍聴なり、議事録を閲覧させていただいたりしてます。追っかけています。なので、今年の2月10日にあった議員協議会、今回この手順を発表するに当たって教育委員会が市議の方々に説明をした会に私も傍聴させていただきました。そのときに一つ、すごく残念で、ショックで、悲しかったことがあります。それは木下部長が「統合を前提に考えている」と議員さんの前で一言おっしゃられたその言葉に私はすごくショッ

クを受けて「やっぱり統合を考えてるんだって」「8月の時点で少しはわかりあえたかな」「教育委員会と和解できた」とちょっと内心ほっとしたんですけれど、やっぱり2月の時点で「統合を前提に考えてるんです」とはっきり言ったあの一言に、私はすごく後ろで聞いていて残念で涙が出そうでした。ですから、今、教育委員会の方々がこうやって揃って私たちにいろいろ説明してくださることも「本当に信じていいのかな」「いや、やっぱり心の中では絶対統合なるんだろうな」と思ったら、今回やっぱり統合という話で、適正化というオブラートの言葉の中にはやっぱり統合したいがために、っていう話じゃないかと思って、またちょっとどこまで信じていいかわからないんですが。

それとこの適正化の条件、適正条件の決定はどうしてこの手順なのか、手順というか適正化の実施条件、どうしてこうなったのか。単学級が複数学年に出現したときに話し合いのステージに立つということですが、私の知り合いで、大阪市の学校に通わせている保護者の人に聞きましたら、大阪市では国の指針どおり、学校が6学級になったとき、だからすべて単学級、すべての学年で単学級になったときに初めて話し合いのステージに立つというきまりで、「川西って早いね。複数学年で単学級が出現したらもう話し合いするの。100人おるのに200人、早いね」ということでやっぱり違和感を感じてました。「なんで、急いでるの。そんなにやっぱり統合させたいの」と言われてちょっと不安がよぎりまして、今日のお話聞いてても、一所懸命統合を白紙にという言葉、白紙撤回まではっきり言ってくださいません。何か一所懸命守ってるような、教育委員会の上部で決められたことを一所懸命守って、私たちに説明しているように感じられます。私、教育委員会にも定例会の議事録も見させていただきました。やっぱりショックなことがあります、やはり統合を進めたいと、推進していらっしゃる委員の方がいますね。8月の時点で、私たちの説明会を開いたときに、「住民がぶち壊した」とはっきり議事録に載ってます。教育委員会の威厳にかかわる、先人に申し訳ないとおっしゃってる委員の方が今の議事録にはっきり、川西市のホームページから見させていただきました。やっぱり教育委員の方の発言はすごく強いと感じました。その定例会では子どものことを考えての、「子ども」の「子」の字も出ていなかったような感じです。子どもがというんじゃなくて教育委員会が、教育委員会がという、主語が違っているように感じました。客観的に見ましたけど。私、主観的かなと思ったのでいろんな方に見てもらったら、やっぱりちょっとおかしいねって疑問を感じて、全くの部外者の方にも見てもらいましたが、ちょっとこの流れはおかしいということを書いてましたので、だから教育委員の意見の強さというのは、私は今回もひしひしと感じているんですが。

だから私たちの意見を聞いてほしい、そして2月10日にあった議員さんたちに対しての協議会でも、本当にたくさんの議員さんから今回の統廃合の、適正化に関する意見に対していっぱい意見、質問を出してもらいました。その議事録はまだホームページには載っておりません、残念ながら。私が今、この

	場で少しノートに取った分を言いたいと思いますけれども、本当にたくさんの議員さんが小学校が地域コミュニティの核である。大事にするということは、少子化になっても学校を残すということではありませんか。地域住民からは統合してほしいという声が上がってないんじゃないでしょうか。若い人を入れたいと言っておきながら。人口減少を止めたいと言っている。統合したら人が減るではないか。統合との整合性がない。このままでは地域の同意が得られないであろう。プロセス、今回はプロセス自体が間違っている。一旦立ち止まって白紙にするべきだ。地域から人がいなくなってしまう。市としてよいのか、これでは逆行する。まちづくりを考えて住民とのギャップをすごく感じる。本当に議員さんたちも、私たちの意見を理解してもらってこんなにたくさん、本当にたくさんの議員さんから質問、アドバイスをもらうにもかかわらず、今回の説明会でこの議員さんたちの意見は果たされているのかどうか、私は全く無視されているような気がしてなりません。やっぱり同じ内容でこれが上がってきたことにすごくショックを感じています。 私は本当に教育委員会とうまく話し合いをしていきたいと前向きに考えております。どうか皆さんの声を真摯に受け止めてもう一回、白紙というステージに立ち戻って、一から話し合いをしたいと考えてます。でないと、この地域、この問題を抱えていることによって、不安定な地域には人は入ってきません。例えば、去年この問題が動いたときに、私の住んでいる緑台の2丁目は、新1年生は1人しか入ってきませんでした。しかしこの一旦立ち止まったというところで、今年の1年生は緑台2丁目で9人入学しました。このうわさというか、この不安定かどうかという状態がやっぱり人口の流入に、すごく影響を与えてるんです。だから、こういう不安定要素がこの地域から一掃して、こういううわさが全くなくしてほしい、でないと、本当に人が入りたくても入って来れない状態になってしまうんです。だからお願いします。今日のこの手順書を破棄したいです。本当に立ち止まって、白紙という状態でスタートさせていただけないでしょうか。そんなに教育委員の方の意見が強いんでしょうか。私たちの意見も聞いてください。お願いします。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今日も色々ご意見いただきました。今後、また小規模な説明会をして、意見を聞いていきたいと思います。その中で、その中でと言いますか、そういった意見を聞く中で、また手順の中身についても検討していきたいと思っております。
牛尾教育長	適正化という捉え方、ちょっとまた戻りますけど、学校配置の適正化というのは、適正規模のことなんです、一つは。適正化の方法に関して確かにグリーンハイツとかですね、担当室長が言いましたけれども、統合が一つの方法としてあります。もう一つは、校区の変更です。一定の両方の全校生の数とか将来的なことで適正化が図れるというそういう手法もあるわけです。当時、緑台地区の緑台1

	丁目から5丁目の緑小の6年生の全員が多田中に行っていたのを、緑台中のほうに校区を変更させてもらっております。だから今回の適正化は少し時間をおいてのことでもあるんですけども、この統合は一つの手法としてあります。もう一つは両校の学校の、もしかしたら校区変更というものもあるかもしれないという含みを込めて、基本的には適正化にあたりまして、統合に向けての基本的な方針というのは答申をいただいて、教育委員会としては方向性は出しています。それと大阪のことも聞きました。色々お話を聞いたことを含めて、手順についてもこういう取り組みについても今後お話を継続してさせてもらいたいと思っていますので、よろしくお願いします。
参加者 ＜在籍保護者＞	これ手順の案、何回も言うけど、これ手順の案やと、参考資料と思って持って帰ったらいいんですか。
参加者 ＜地域住民＞	案じゃないよ。
参加者 ＜在籍保護者＞	手順、決めてるんですか、これ。決定事項をまた持って来たんですか。案言うたやんね、さっき。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	この手順につきましては一定の手続きを踏まえて決定しましたので、手順としてお持ちさせていただきました。ただ、色々意見をいただく中で必要があったら変更という可能性ももちろんございます。ただ、
参加者 ＜在籍保護者＞	決定やったら、さっきほななんで案や言うたん。
参加者 ＜地域住民＞	おかしいこと言うから、
参加者 ＜在籍保護者＞	言葉おかしいやん。さっき案や言うたやん。ただの、これあくまでも案や言うて。未確定みたいな言い方したやんね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	ちょっとすみません、表現が難しいところがありまして、
参加者 ＜在籍保護者＞	難しいとか言うて、だますようなやり方、去年みたいにするのやめてくれ言うてるねん。地域住民だましに来てんのんかいな、教育委員会、あの手この手で。ちゃんときれいな言葉で透明性持って話してよ。かたや案やとか、未確定やっ

参加者 < 在籍保護者 >	て、さっき角の人さっき言うてたやん。これ残ってるやろ、おたく未確定言うたやんね。なんで未確定言うてる手順やのに、確定言い出すの、今度。
参加者 < 在籍保護者 >	持って行ってください、マイクを。
木下教育推進部長	角の人、未確定言うたでしょう。 この学校配置の適正化の手順ということでお示ししています。基本的にはこの形で進めさせていただくんですけども、今日こういったご意見を聞きながら、文言等の小さな修正はしていきたいというとは思っています。ただ、大きな流れとしまして、この手順にお示ししている大きな流れというのは、教育委員会としてはこう思っていますということの一つはお示ししています。ただ、それは必ずしもそれが100パーセント、統合ありきで進むわけではございません。ただ、教育委員会の方針としては、そういう方針を持っているということをまず一つお示しさせてもらった上で、あとは大きな工程で言いますと、要は、あと適正化実施条件が現れたときに、しっかりと住民の方とお話しをさせていただく中で方向性を決めていく、今回再検討になった中で一つ挙げているのは、住民との話し合いの中で十分な話ができていないまま進んでいったという反省に立って、その部分もしっかり話をしていくというそういうような方針を立てさせてもらっています。したがって、教育委員会としては統合をしていく、この方向は良いっていうものを持ちつつ、今までお示ししていた統合年度、特に年度については未定になりますし、統合の学校についても未定になるということで、お示しさせていただいています。手順として適正化実施条件が現れたときにしっかりとお話をさせてもらいながら、こういった方向に進むのかを検討していきたいと、そのものをお示しさせていただいたということでございます。したがって、色々のご意見いただいたんですけども、我々としては現時点でははっきり言えることは、その適正化実施条件が現れなければ、統合ということは当然行われな、そういうことです。ただ適正化実施条件が現れたときには、どういう形で少子化に対応していくのかを考え始めるという、そこまでをお示しさせていただいたのがこの手順でございます。そういったことでご理解いただけたらと思います。 だから、言ってる意味はわかるんですけど、何回も。これ手順は案ではなかったということでしょう。手順はもう決めてきたということでしょう。さっきから案言うたり、未確定言うたり。 ちょっとそのあたりがはっきりと上手くお伝えできなかったんですけども、こ

	れもうすべて１００パーセント変えないという、そういうものではございません。ただ、大きな方針ですね、今言った部分はそういった形で進めさせてもらう。ただ、その中で、文言等について、こういった表現というのはさらにということであれば変えさせていただくと、そういう捉え方をしています。そのことについては、議員協議会の中でも説明させていただいて大きな方針は変えないけれども、文言等の整理はさせていただくということで了解をいただいて、そういう形でお持ちしています。
参加者 ＜在籍保護者＞	だから、それだったら手順を作る前に地域の住民、保護者と話し合った上で、手順を作ってくるのが順序じゃないの。なんであなたたち教育委員会は上から目線で、手順も作ってきて示すわけですか、毎回、毎回。地域住民、保護者が考えたことを色々総合的に考えて手順があるんでしょう、普通であれば。なんであなたたち統合ありきの人間が考えていたものが手順なんですか、それやったら。ほんで地域の住民や保護者と話し合っていきます。ある程度それを土台にして意見が出たら吸い取って上げますが。なんでそんな上からなんですかって、毎回。
木下教育推進部長	上からと言われておりますが、決してそんなつもりはございません。ただ、この手順をよく読んでいただいたらわかると思うんですけども。
参加者 ＜在籍保護者＞	わかりません。
木下教育推進部長	いや、要は、
参加者 ＜在籍保護者＞	わかりません。
木下教育推進部長	この手順の中で示しているのは、あくまでも、
参加者 ＜在籍保護者＞	統合でしょう。もうわからへんやん。
木下教育推進部長	この中で示しているのは、適正化実施条件が現れたときに、皆さん住民とか、学校、あるいは地域の方ともしっかりと話し合いを持っていきますというその部分だけです。
参加者 ＜在籍保護者＞	いや、だから、いずれかの学校に複数の単学級が現れた場合からスタートなわけでしょう、この手順。もうこの時点で平成３１年度には単学級現れるわけでしょう。

木下教育推進部長	う。ほなもうそこからスタートが理屈から言えばあるわけですね。 平成31年はあくまでも推計ですので、もしそのとおりなら31年ということになりますけども、その時点から検討に入る。ただ、そのときの検討イコールすぐに統合ありきではないということです。つまり仮にですけども、2つの学年が仮に単学級になったと、そのときに1年生が仮に単学級になる。次に、例えば4年生が5年生になるときは35人学級が40人学級になりますので、そこで単学級が生まれるということもございます。ただ、そのときに、2学年がなったのですぐ適正化に進むのかといったときも、どうするかということを皆さんと相談をしていく、そういうことでございますので、これはあくまでも自分の私的な考えで言うわけですから、それがちょっと決定とかそんなんじゃないですけども、そうなったときに4年生から5年生のときには単学級になったけれども、まだいわゆる適正化実施条件を進める時期ではないという判断も当然起こり得るわけですし、あるいは同じ単学級であっても、先ほども少し言いましたけれども、35人というのと、あるいは20人という意味も違いますし、あるいは実数を見たときに、例えば3学年は40人、50人ずつというのは、実体としてわかってるんであれば、一過性の単学級だというものの見方もできます。そういったことをすべて含めて、検討を皆さんとしていくという、そういうふうな手順を示させてもらったということです。
参加者 < 在籍保護者 >	手順いらんもんね、それやったら。
参加者 < 地域住民 >	納得できません。
参加者 < 在籍保護者 >	納得できないです。だからそれやったら手順いらんじゃないですか。それでそんな不透明な状態とか言うことをこの地域に植えつけたまんまで、地域住民にその罪だけなすりつけるようなことをなんで教育委員会がそんなことを勝手にできるんですか。この辺の地域に転校せなあかんようになるやろとか、廃校なるんやろとか、イメージダウンされてるわけでしょう。住んでる人間からしたらいい迷惑ですよ、はっきり言うて。イメージダウンに向かってるでしょう、要は。だから住んでる側からしたらいい迷惑なんです。はっきり言うて。その不透明さが。学校の手順があって、角の人は言い間違えたとか、誤解やって言うてるけど、そんな誤解するようなレベルの頭でね、来るんやったら来んかったらええやん。理解せんと来てるわけでしょう。そのレベルで来んかったらええねん。手順やとか、案やとか。

志波学務課長	すみません、私の発言が少し言葉足らずであったのと、それは申し訳なく思っています。私が先ほどの手順が確定なんかどうなのかということを知られたときに、未確定ということでお伝えをいたしました。それは先ほどの繰り返しになりますが、一定その手順を決定の過程を踏んで今回この資料として提供をさせていただいてます。ただ、先ほど部長が申しましたが、これは一切変えない、そういう意味ではないということなので、皆様のご意見を伺って文言訂正等が必要な箇所があれば今後変える可能性があるということで、私は未確定という表現をさせていただきましたが、それがちょっと不適切であったということであれば申し訳ありません。
参加者 <在籍保護者>	そしたら、今いろんな方々からの意見出ましたけど、この手順自体が要らないですから白紙にしてくださいという地域の意見が今、出ましたよね。私だけじゃない意見からも。だからこの手順は白紙にしておいてください。これ言えるんですよね、意見。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今日はたくさんご意見をいただきましたので、それは検討させていただきます。また今後、小規模での意見交換会を重ねていく中で、いろんな方のご意見を聞いて最終的にはこの手順をどうしていくのか判断をしていきたいというふうに考えております。
参加者 <在籍保護者>	意見交換会も前もってホームページの中だけでなく、いろんな広報とか、チラシとか、このグリーンハイツエリアにまいてくださいよ。ざら半紙でもええんで。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	小規模な意見交換会をどう進めようかというのは今後考えていくところで。
参加者 <在籍保護者>	どこで、誰が話あったか、誰が地域のコミュニティの代表やったか、去年もあったでしょう。代表者が来ていうて、代表なんか選んだ覚えないからね、去年も言うたけど。誰が言うたかわかれへんような話し合いに、教育長が話し合っって許可下ろした言うて、住んでる人間が全員迷惑やからね、はっきり言うて。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今後、進めていきます、小規模な意見交換会というのは、例えば学校であれば保護者を学年ごとに小規模にグルーピングしていただきますとか、例えば就学前の幼稚園、保育所の中で何人か集まっていたとか、また地域の中でいうことで、できるだけたくさんの回数を行う中で、より多くの方のご意見を聞いていきたいと思っておりますので、例えばこういった規模での説明会はどうだというふうなご提案がありましたら、教えていただけたら進めていきたいと思っております。

参加者 <地域住民>	す。 地域住民の者ですけど、去年から私も時々聞いているんですけど、やっぱり皆さんご指摘のように、全く基本的には教育委員会の方の頭の中は変わっていないということで、私はちょっと残念に思いました。そしてこの中で、とりあえず案だったら話はわかる。手続きになってたら誰が見ても、おとなが見たらですけど、決定やということははっきりわかってるわけで、言葉でごまかして、これは決定ではありませんとかいうてもそれはだめなんです。裁判になったらこんな手続きが入ってますよ、手順ですよ言うたらそのままになりますから、これは完全に破棄すべきやと思います。 それから、もう一つ、このややこしいことは単学級、複数学年にあったとなったときだったら、もう一つその単学級になった学校が吸収されるというように書いてくれてたら皆さんは安心をされるんです。ただしそれも決定じゃないから、陽明小学校は小規模校で何とか残したいと、私は思います。ただしそれやったら誰でも緑台が今までの例から見とったら吸収されるねんというふうに思うからみんな怒ってるわけですよ。だから民主主義なんやから、基本的には何が原因でなったんだということであつたら、陽明小のほうが単学級になったんだつたら、あなた方の指導であそこは緑台に吸収しますよということの説明を今からすべきなんです。たまたま緑台小学校と陽明小学校やったら、陽明小学校、かわいそうや。一番端ですわ。それは緑台の私も3丁目の者なんですけど、私もよく歩いてるけど、大変やねん。散歩してるけどもむっちゃむっちゃ大変。それを毎日せなあかん子どもの方が見たらまだ緑台小学校が来れる。それから陽明小学校も住んでる人もこっちへ来れるんです。私しょっちゅう回ってたらわかる。なんで端の端まで持って行くのっていう、基本的にはあなたたち大学出て立派なサラリーマン生活やないけど、やってるわけやから、頭の中はちゃんとわかってるはずや。基本的にはそういうところから考えたときに、無理があるということのはわかってるから、中でそういうことしてるから、余計に合点が行かんということなんです。基本的にはそういう形のスカッと単学級になったところの小学校が基本的には吸収ですよということを書いてくれてたら、皆さんある程度納得するけど、ここは安心するわけですよ。ただ、緑台かて陽明を潰せなんて言うてないでしょう。そういうような温かみがあってしかるべきではないか。 結局、去年自分が都合悪い人はしゃべってない。それで普段かさかさ言うてるんじゃないかと私は勝手に思うんで、言わしたれ、だけど最後にちゃんと言うたわね。だからそこら辺のあたり、個人攻撃や言うてはるけれども、やっぱり冷静に考えたときにやはり皆さん緑台でこんだけ人数が増えてきているという現実、現実にあるわけです。それで2年後って言わんでも、10年後、6年後、10年後には足りへんよ、その必要性というのは。だからここは皆さんが言っているように、一旦白紙でとりあえず撤回してください。それだけはこの会議の一番要点
-----------------------------	---

	だと思えます。それで、会長さんが言われたように「小規模で」「小規模で」と、小規模になってでもね、皆さんおっしゃられてるわけでしょう。人数が少ないところに関して。これだけいっぱい皆さんいたところではちががあかんからそういうやり方でやっていくんでしょう。ある程度こちら辺の方で納得してからってやっていくんです。筋が違う、やり方が違う、説得の仕方が間違っている。そういうことでよろしくをお願いします。
木下教育推進部長	今、お話いただいた中で、具体的な話もいくつか出てきまして、要は小さい方が大きい方に統合というかね、吸収されていく、そういうお考え。それから記述として3年後とか、5年後とか、10年後といったそういった具体的な話もこうやって出てきているわけですけども、今回、そういうようなことを示すということは、住民との意見を十分吸い上げてないという、そういった意味で、ひょっとしたら、今言ったような意見が決まっていくのかも知れませんが、それを今現時点で示すのではなくて、実施条件が出たときに皆さんとしっかり話をして、そういう条件づくりをしていきたいと思いますという、そういう考え方に立っているわけです。したがって、色々わかりにくい部分があるかも知れませんが、あくまでもしっかり住民の方、保護者、あるいは学校とも話をする中で決めていきたいと思いますという、そういったことを手順として示さしていただいているということでございます。
参加者 < 在籍保護者 >	あのね、去年と変わってない。あんたら全部上から目線や。だからこの手順というのを見せたのは、2年後や、2年後になったらこういうものを発動させていただきますよと、言うてるだけや、実は。今もひょっとしたら何とかしたら言うてるけれど、ベースは統合や。だからその話し合いが始まっても、ここにいろんな小規模とかなんだらとね、適正化はこういうパターンにこういうパターンがありますというふうになってるけど、統合するということがもう自分らで決まってるから、話し合いじゃなしに「僕らはどうしてこうなることかできないんですか」と全部お願いをせなあかんのです。ひょっとしたらそうかも知れませんが、ひょっとしたらつくかも知れませんがって全部消されるんです。だから全部あんたら上からなんです。だから話し合いをするんやったらあなた方は頭の中では統合というのではなくて、このパターンもある、このパターンもある、このパターンもあるけれど、皆さんどうしていきましょうかというふうな形だったらわかるんですけど、あなた方の頭の中のベースの統合は前回から変わってないんです。そこからね、いろんな適正化何とかがあって、先ほど言うてはったオブラートに包むだけで、結局、何か変えていこうと思ったら、僕らあなた方を説得せなあかんのです。話し合いと違うんです。それもあなた方は、そんなこと言うるとるわみたいな感じで、こちら辺ちょこっと変えとこかぐらいなもんでう。全て上から目線なんですよ。

	今日もずっとやるけど結局はこれあなた方のペースで「これでいきますよ」「何かあったら言ってくださいね」「だから2クラスできたら発動しますのでよろしく」ですよ。そのあと「小規模で何とか集まってみんなやっていますから」と言うてますけど、結局、あなた方の実績作りですよ。「こんだけみんな集まってやりましたよ」と市議さんに出すだけですわ。「こんだけ話し合いをやったから今度はちゃんと話し合いもいっぱい増やして、市民さんと話し合ったからこれでいきましょう、統合しましょう」。違いますか。だから結局手順を作るに当たって、先ほどの話です。統合が頭にあると、これだけいっぱいありますと、適正化にはこんだけあってこんだけの部分もあります。ただ、2年後かどうかわからないですけど、そうなったら発動します。発動したらそこからみんなで話し合って適正化のこのパターンやったらどうだったの、このパターンならって、話し合っていくましよう、なんですよ。けどあなた方がつくってきたのは、「2年後にはこれを発動します」「いろんなことを書いてあるけど、統合ベースでやっていきます」「あなた方が何か言ったらちょろちょろと変えとくかもしれません」としか言うてないんですよ。すべて上から目線なんですわ。それで「私もそんな上から目線で言うてません」て。悪気がないからなおさら悪い。
参加者 < 地域住民 >	僕はやっぱりこの論議をやっぱりね、適正化条件ができたらどうこうするのじゃなくて、適正化条件をそのものをもう一回みんなで検討すると、そういう場を作ると。そのことが一番大切と違うかなと思いますね。適正化条件に届いたらどうこうするんじゃないくて、その条件がほんまに市民の解釈の、住民の保護者の賛同を得れる条件であったのかどうか、そのことから論議すればね、あとはそんなに大きな問題にならなくて済んでいるん違うかなというふうに思いますが、その点はどうですかね。
参加者 < 在籍保護者 >	住民、保護者が考えたことを行政がしていくんちゃうの。そんなん独裁や。民主主義でもなんでもないわ。
参加者 < 地域住民 >	今の答えは。よろしいですか。
伊豆教育推進部参 事兼学校指導課長	そろそろ、ちょっともう時間がきました。
参加者 < 地域住民 >	ちょっと、一言お願いします。じゃあ、いいですね。私はこの前2月10日に議員協議会、傍聴しました。先ほどの方も言われましたね、悲しかったと。確かに私もそれ見てたんです。確かに悲しいです。というのは、去年も統合はないと、これだけ話をして、言ったのにもかかわらず、出てましたら、本荘副市長と

木下部長さんが、議員の人たちが色々出していただきました、統合の課題であるとか色々言っていたににもかかわらず、木下部長さんと本荘副市長は「統合ありき」でいくってはっきり言われてましたよ。すごい悲しかったです、同じですよ。まだそんなことを言ってるのかと思って帰りました。それで校区審議会とかあなたは委員参集やらないのか、といったらやらないと。木下部長さんと副市長さん、大塩市長さんの中には、それは教育長さんもそうでしょうけど、もう上の方が統合ありきでいきますと言ってるわけですからね、2月10日に。それを隠してここでのど元過ぎればいいわ、お父さん、お母さん、住民のみんながこれをのど元過ぎれば、聞いて帰れば、去年もそうですね。聞いて帰ればまたほとぼりが冷めるわ。また秋かなんかにあるかもしれませんが、こういう状態が続いていたらですね、まちづくり、グリーンハイツのいいまちづくりもできないんです。私たちが築いてきた老人何人かが築いてきたまちを、若い人に残していきたくないじゃないですか。それで一生懸命やっているわけで、もう70を過ぎますけどね、やってるわけなんです。

そのために、若い人と一緒になってやっていくのに、あなたたちは本当の心の中には統合ありきというのをはっきり2月10日に言われたじゃないですか。皆さん知らない人もいますよ。先ほども悲しかったって言われましたね。それが当然なんです。それを上の人にちゃんと木下さんはここにいらっしゃるわけですが、部長さんは。ちゃんと本荘副市長のほうに言われて。住民がこれの意識を全部言っていたきたいところです。それで、私は陽明小で言ってたのも、どちらかが陽明小、緑台小100人以下になったら考えてくださいと言いました。100人以下になるということは、10年ぐらい先になりますでしょう。10年間。そうすると、それから考えていただいたら皆さん、それまではやはり白紙撤回しますということを署名していただいたら、ここにいるお父さん、お母さんが、陽明小の人もそうです。グリーンハイツも陽明小のお父さん、お母さん、緑台小のお母さん、お父さん、安心して子どもを育てて働きにも行けます。お母さん、お父さん、子どもも安心します。あなたたちは子どものことを一番に考えていない。一つも考えてません、子どものことは。いじめもあると言いましたね、陽明小には。転校してきたらいじめもあった。統合すれば必ず統合したほうに行ったほう人はいじめられるんです。いじめというのはなかなかなくなりません。自殺も大勢します。明峰でしたか、高校でもありましたね、自殺が。この前の新聞でようやく解決したとなっていました。いじめを認めています。そういうこともあるようなら、私はもう一つ言いたいのは、とにかく白紙撤回を求めます。これだけみんな意見して、白紙撤回で、100人以下になったらやってください。それから議員さんは一生懸命言いましたよ。まだ考えるべきじゃないというのは。その議員さんの意見も吸い上げてください。

それから、もう一つ言いたいのは、この校区にですね、前は特例出してましたけど、去年から特例いうのをなくしましたと言いましたね、陽明小に行ってい

	っていうの。そしたらね、これはどうなんでしょうか、ここに2年生、緑台の2年生、29年度35名で1学級になってますね。これはですね、4月に教育長のお話で言われたんだと思うんですけど、陽明小に行かれてた、春休みでしたら1年生、今2年生になってます。この表では35名で1クラスになっているところだと思うんですけど、その生徒さんの親御さんが今まで陽明小に引っ越してきて慣れてるから緑台校区の地区なんだけど、教育長に話をすると行ってましたけど、今、緑台地区なんですけど、陽明小に1人行っていらっしゃいます。これは特例ということになるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。これ大きなこんなことを言ってるんだったら学級が少なくなるんだったら考えるって言うんだったら、それは校区が緑台小になって陽明に行ってるらっしゃるのは2年生は多いでしょうか。どのようになりますでしょうか。お話いただきたいと思いますが。これは特例じゃないんですか。お答えください、お願いします。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	議員協議会のときのお話をさせていただいたんですが、先ほどから申し上げているとおり、現時点において教育委員会としては方針は変わっておりませんので、議員協議会においてもその旨をお伝えさせていただいたところでございます。それと手順でございますが、やはり教育委員会としては教育環境を適正化する責務がありますので、教育委員会の責任としてこの手順を作らせていただきました。この手順をもとに今日もご意見をいただきましたが、今後ご意見はお伺いしたいというふうに考えております。
参加者 <地域住民>	人数調整はどうですか、教育長さん。
参加者 <在籍保護者>	意味がわからへん。手順はそれでやるんかいな。意味がわからん、案や言うてみたり、これはどうやとか、これはもう一回意見は聞き入れるとか、意味がわからん。何が言いたくておたくらこの時間座ってるの、毎回。何回もしてるけど、大事な話やねんからこの賛成してる副市長や市長を呼べよここに。何様であいつらあそこにずっとおるねん、役所に。何で副市長もそんだけ偉そうに言うてんねやったら出てきて真ん中に座って言わへんの。何様であいつ副市長しとるねんほんなら。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今回、統合という、
参加者 <在籍保護者>	おたくらに何回もストレートに呼べ言うてるねん、市長も副市長もここに、それやったら。

中西総務調整室長 兼教育推進部参事	教育委員会の発意で今回、この取り組みを進めていくところでございますので、
参加者 < 在籍保護者 >	はい、だからそれを取り下げないと、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、だったら白紙にしたらええやん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	教育委員会が説明に来させていただいている、
参加者 < 在籍保護者 >	だから詐欺やろ、また、これ。手順や言うてみたり。さっきから言うてるけど、言い方が悪かったとか、わけわからんやん、はっきり言うて。それで話はそこからまた混ぜてやっていきますいうて。それやったら地域住民と話し合ってから手順を作って通したらええん違うの。何でおたくらが作ったベースにこっちが乗っからなあかんの。だから聞いている意味がわからへん。これから話し合っていくましよういうんやったら、手順が何もないん違うの。これから手順を作っていくことを話し合いましよういうのやったらわかるよ言うてるねん。何でおたくらがベースをつくった手順に乗っからなあかんの。ましてや、統合ありきのメンバー全員がね、統合ありきの意見の賛成者ばかりで、何の話し合いができるの。何回も言うてるけど、木下部長は、俺は統合反対してる人間やいうのやったら、部長さんは反対、これ教育長は賛成ね、課長さんは反対、言うてる人間なんですわいう中で話し合われたわかるけど、おたくら全員方針が一貫して言うてはるやん、さっきから統合やって。何を話し合うんよ、だからおれらと。住民は反対や言うてるわけやから。おたくらは統合や言うてるわけやんか。何を話し合うの。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	1つは、賛成、反対の中身のほうでお話をしたいと思っております。
参加者 < 在籍保護者 >	だから反対やってずっと言うてるやん。あんたらが答えへんやん、明確に。それ今さら陽明小学校をつぶしますなんか言われへんよな、おたくらにしたら。それ言うたら、陽明からえらいバッシングが来るもんね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	統合のときのメリット、デメリット、そこが、

参加者 < 在籍保護者 >	だから統合は要らんやろう、別に、
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そこはやはり、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、保護者の意見や。ほんで、子どもをね、去年、心のケア、子どもが、おれの子どもが「学校無くなるの」というて心配してる。「今も学校無くなるかどうかわからへんの、お父さん」言うてくるわけや。おたくら去年のときに子どもの心のケアを入れる言うたやんね。何か学校がやってくれたん。だれかケアマネジャー行かしたん、教育委員会。ほったらかしやんね。心のケアしてあげたんか、あんた、行って。「学校統合問題、これから無いよ」言うて、「今、安心して今のところ学校へ行っというていいよ」って、子ども、そらだますかわからへんよ、一時は。そういうことをやったん。未だに子どもらから無くなる不安を抱えたまま学校に行ってるよ。おたくらそれ去年にケアする言うたやん、こっちに、保護者サイドに。それも都合が悪いから3回目、4回目と議事録が残ってないんやろ。都合が悪いから。それで子どものことを考えてる、ケアする、何をケアしたん、おたくら。ほったらかしやんか、ずっと。
牛尾教育長	緑台小学校で単学級になりました、この件で。実質は加配をつけさせていただきましたし、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、だから、今行ってる子どもに何かしてあげたことないでしょう。
牛尾教育長	それは、
参加者 < 在籍保護者 >	子どもに何をしてあげたのって言うてるねん。大丈夫だよという声かけをしてあげたの。不安なまま学校に子どもが行ってるわけでしょう、今も。陽明まで通わなあかんのかな、今日もお父さんまたその話って言うてるわけやから。おたくらいつまでそんな子どものことええ思ってる言うて、ええ格好言うてるけど、おまえら自分らの子やったらこそんなこと言うてられんのか。ええ格好ばかり言うとするけど。そんな建前の話をする場と違うやろ、ここ。
参加者 < 在籍保護者 >	今日も子どもに言えませんでした。ただ、「統合のことで話し合いがあるから、ここお母さん行くんだよ」と言えなかったから、学校で話し合いがあるからねって。

参加者 < 在籍保護者 >	おたくらおかしいわ、言うてきてることが。
参加者 < 在籍保護者 >	その子に言えないですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	他人事やからそんなんやねん、毎回。心のケア一切してないやん。
参加者 < 在籍保護者 >	何かケア考えたってんの、今。そういう不安なままだ。学校無くなるかもしれないという子どもたちにどういうケアを考えてあげた。統合ありきでの考え方やったそれ考えて言ってるのやろ。それ言ってみいや。統合ありきってそういうことでしょう。子どものことを考えた上で統合がええわけでしょう。今、不安に思ってる子どもたちがおるわけでしょう。今の2年生ね、うちの子、今1年生もおるわ。「お父さん、無くなるの」と、5年生もおるよ。無くなるの言ってるわけや、1年生の子が。その子らに一体どんなケアしてるの。「無くならないよ」って言ってるの、教育委員会としては。「いや、陽明小学校に行っても気持ちよく行けるよって」って言うのをケアしてるの。不安なままの状態が心のケア、子どものこと、おたくらほんまに子どものことをわかってる。保護者じゃないからおたくらそんなこと言えるねん。他人意識やから。
牛尾教育長	わかります、わかります。
参加者 < 在籍保護者 >	わかってません。
牛尾教育長	2年生が実際、1クラスになってますから。
参加者 < 在籍保護者 >	それは、自分らがやったことやろう、おれらのせいみたいに。
牛尾教育長	わかります。
参加者 < 在籍保護者 >	どう責任とるんですか。
参加者 < 在籍保護者 >	自分らが勝手に決定やいうて促したんやろ、ホームページまで。

牛尾教育長	そこは十分、
参加者 <在籍保護者>	自分らが詐欺やんか、おれらに決定事項みたいに持ってきて。実は決定じゃなかったです。教育委員会にすれば決定です。うそばっかりやったわけやろ、去年の。それでさっき言いよった人の中で言ってたね、「その問題に関しても教育委員会のプライドが」、知るかプライドなんか。なんでおまえらのプライド、住民がそれで生活せなあかんのや。何で自分らの教育委員会のプライドや云々を立てるために、メンツを立てるために子どもの学校を考えなあかんの。おたくら全員辞めや、一回、もう市役所を。行政、頭おかしいわ、やってることが。教育なんか考えてない、はっきり言うて。自分らは文科省や、何や役人か何か知らんけど、そっちにええ格好したいだけで来てるのやろ、ここに。ほんまに何もしてないやん、去年もその問題起こってから子どもに。学校にも「そういうことは無くなったということを促してや、もっと」というのも言ったわね、こっち。「わかりました」言うたよね、教育長が。何かした？何もせんとほったらかしや。一番最初に質問しはったお父さんの意見かてそうや。教育委員会がそうやってメールを送って、質問事項を送ってるに関しても、去年から今年になっても返答してないわけでしょう。おたくら仕事してない、はっきり言うて。 そやのに、統合のことで急に來てるわけでしょう、ここに。時間の無駄はわかってとる、こっちまで時間の無駄や思ってる。さっきからこいつら時間時間時間言うてるけど。こっちも時間は考えてるよ。そやけど、こないして言うとかんとおまえらの好き勝手させるから言うてるわけやろ。勝手にばんばんばんばん印鑑回していくから。それは適正化って、地域住民のこの話し合いの場を設けましたという形がほしいだけでしょ。何回も意見聞かれてるやん、自分ら。そういう場を設けました設けました。その中で、「今回、統合です」という段取りに変えただけでしょう。そういうわかりきった手口でやるのはやめてよ、ほんまに汚い。私たちは統合じゃない言うてるんやったらわかるよ。だから俺、方針も白紙撤回しよう言うたやん、去年に。そやけど、あんたらのプライドのためにね、撤回せんかったわけでしょう。それでよくおれらの話を聞いてくれる課長さんをすり替えたわけでしょう。尾辻課長、なすりつけて、「おまえが意見ようさん聞くから」言うて、変えたん違うの、尾辻課長を。よう親身に聞いてくれはったよ。何でその課長さんわざわざ変えたん。牛尾さん。その流れだってわかってる人が、今検証してるままのほうがあええに決まってるやろう。何でそこで課長を変えなあかんの。これもわからん。それおたくらの事情か知らんけど。ええようにこっちの住民の話聞き過ぎたから気に入らんかったかも知らんよ、おたくらが。自分らの思いどおりに動かへんメンバーやからね、それやったら。はっきり言うておたくらが辞めてほしい、僕らからしたら、牛尾教育長も。
木下教育推進部長	ちょっと、課長の話がでてましたけど、

参加者 ＜地域住民＞	ちょっとマイクを使ってください、聞こえません。
木下教育推進部長	課長が出たという話が出てましたけど、決して統合の影響ではなく、市全体の中でこれはもう異動ということで変わっていったら、
参加者 ＜在籍保護者＞	それ流れは何とでも言えるやろ、後づけで。内部事情やそんなん言えるわけないよ。
木下教育推進部長	だから、そこはもう全然、
参加者 ＜在籍保護者＞	その段階でそうじゃないとか、言えるわけないやん。
木下教育推進部長	それだけで、今までもうちょっと我々もやっぱり子どもの、
参加者 ＜在籍保護者＞	今見たニュースみたいなうそっぱちなことばかりするのはやめてよ、自分らここに来て、ほんま。
木下教育推進部長	ただ、基本方針として変えていない、
参加者 ＜在籍保護者＞	緑台小学校の跡地をだれがどんな利権をもって、誰が狙ってるのか、この跡地を。それしかわからへん、俺らはもうはっきり言うて。そうとしか思わへん。こっちが欲しいだれかの力が働いてるんでしょう。
木下教育推進部長	そういう部分で動くことはありません、
参加者 ＜在籍保護者＞	副市長は、何してるの。
木下教育推進部長	ちょうど、一番最初に陽明小学校にという案が出たときにですね、あのときの推計で言うたら、緑台小学校、陽明小学校は同じような推計やったんです。
参加者 ＜在籍保護者＞	そんなん、推計かって見誤っていたわけでしょう、おたくら。住民のせいみたいな言い方せんとしてよ。自分らが間違ってきたわけやんか。
木下教育推進部長	だから、そのときに出した推計というのは、どっちも同じように減ってくるといふ推計であったので、その時点でどっちのほうが、

参加者 ＜在籍保護者＞	だから、推計を見てやれへんのでしょうか。推計を見てやれへんやったら白紙にしといたらええやんか。何で白紙にしとけへんの。それで、自分らが今後そうなったときの対策は、教育委員会としてはこういう考え方を持っとこうでいいん違うの、おたくらのタイミングで話し合っというて。何でわざわざそれを住民に持ってこなあかんの。
木下教育推進部長	自分たちが思っているのは、あくまでもやはり一定規模の子どもたちを確保していくというのは、すごく大事だと、
参加者 ＜在籍保護者＞	いや、だからこれは不透明なままで、まちづくりの代表もやってはるんでしょ、課長さん。多分兼任でしょう。今は違うの。もうこっち一本？もともとまちづくりにいてはったん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	いません。
参加者 ＜在籍保護者＞	どこにいてはったん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	私は教育委員会の中のこども未来部の総務調整室、
参加者 ＜在籍保護者＞	子どもを増やそういう側にいてはったんやね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今は教育推進部と兼務です。
参加者 ＜在籍保護者＞	でも、そんなんでは子どもが増えると思います。そんな不安な場所に。転校させようと思うと思いますか。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	確かにそこは理解するところではあるんですが、一方で、さっき部長が言いましたが、やっぱり教育上は集団教育ですので、一定の規模が必要だというのは、教育委員会の考えであります。1回、当初の陽明小学校案が出たときに何か外からの力が働いてるんじゃないかみたいなのをおっしゃいましたが、陽明小学校を活用していこうと決めたのは、教育委員会ですので、

参加者 < 在籍保護者 >	教育委員会のどんなメンバーですか。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	事務局の、
参加者 < 在籍保護者 >	事務局が決める権限を持ってるん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そうです、はい。
参加者 < 在籍保護者 >	ほな、なんでそのときに今権限を持ってるメンバーなんでしょう。事務局の人らやったら。何でまた今、陽明と言われた。陽明、緑台を使っていこうという意見を言われたの。そのときは簡単にまちづくりの観点とか学校校舎の規模とかいろいろなことを言って、陽明言うたやん。
木下教育推進部長	今、現時点で言えることはいつにする、両校に複数学級が出たらという時点を使うのはそれはおかしいと言われているんですけど、それが無かったとしても今、現時点では再検討になったという時点で、いつもし統合するならば、いつ統合するのかは決まってないんですね。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、だから決まってないけど、はよ、それやったら消しといてくれたほうがええん違うのという話。
参加者 < 在籍保護者 >	白紙にせんと、だからおかしいんです、全部。
参加者 < 在籍保護者 >	それがいきたままやから、地域住民にしたら、いつなのという感覚しか残らへんわけでしょう。
木下教育推進部長	イメージとしてですけど、多分その適正化条件だったら、もうすぐにぱんぱんぱんぱんと統合が進むって、多分イメージされると思うんです。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、だってそんなん去年だって30年度には統合しとったわけやね、2年足らずの間に1年前ぐらいに話を持ってきて、いきなり統合しまっせ言うて、保護者にいきなり言うてきたやろ、おたくらが。

木下教育推進部長	その経緯はわかるんですけど。
参加者 < 在籍保護者 >	わかるっていうか、１年以内にやれるようなことを通うそうとしてきたメンバーのことを、そうかそうかって信用して言える？
参加者 < 在籍保護者 >	信頼関係がないんです。
参加者 < 在籍保護者 >	ないんやから、そんなん。マイナススタートですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	だから、白紙撤回してスタートラインに、
参加者 < 在籍保護者 >	今、おたくらブラマイゼロでおるん違う、マイナスや、信用なんか欠いてるわけやから、教育委員会はもう完全に。さっきから言ってるように心のケアをしてあげたんいうことを一切答えへんやん。課長さんもそうやし、教育長も。何してあげたん、ほんなら緑小の子らに。陽明小の子らは学校無くならへんからええやんか。「あいつら来たら嫌やな」って言うもったわけでしょう、子どもらの会話では。おたくら聞こえてないだけやろ、それは。そんなん陽明のやつら言うもったわって聞いたことある。おたくら、きれいな部分しか目向けへん、耳傾けへんもんね。おたくらの都合のいいことしか口にせえへんでしょう。臭いもんにはふたするでしょう、今の政治家も行政も。ちょっとええ加減にせなあかんの違うかな。ちょっと市民や住民なめすぎ違うか、ほんまに行政。そんな小手先の詐欺的なやり方やめてほしいんやけど。ほんまに子どものこと考えるんやったら教育長、ケア何してあげたん、それ今、立って言ってよ。ケア何してあげたん、去年からほったらかしで。未だに学校無くなるかもわからへんねんて言うてる子どもたちのケア、何してあげてんの。
参加者 < 在籍保護者 >	未だに担任の先生に言う人いるんですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	それで学校には促してるだけでしょう、どっちの肩も持つなって。ＰＴＡにもどっちも肩入れしたらあかん言うて、中立的な意見をみたいな話をさせてるわけでしょう。何でそんなこと自分らするん、どんな力でさせてんの、そんなん。学校がさせてんの、教育委員会がさせてんの。自分ら何の力働かせてんの、ほんまにいい加減。ちょっと薄汚すぎますよ、やってることが。ちょっとほんまに透明性持ってもらえません、川西市。黒いですよ、はっきりいって。ほんで子どもの

	ことでケア何してあげたんですか、教育長。何回も言ってますけど。これ答えてください。去年白紙撤回ね、しないまま再検討言うてから、今まで子どもたちの学校なくなるかもしれないという子どもたちの今の不安な気持ちを。平等でないとあかんでしょう。学校というのは。その不安を抱えたまま勉強してるわけでしょう。その子たちと学校なくならへんてわかってる子どもたちって平等なんですか。平等なんですか。それだけでも答えてよ、平等なんですか。その心の不安持ったまま勉強、授業に学校にも通ってる子どもたちの気持ちって平等ですか。あなたたち平等って言ったよね、今回の中でも。平等ですか。
牛尾教育長	気持ち、よくわかります。
参加者 < 在籍保護者 >	気持ちはわかっていないんです。やってるんかっていうことを聞いているわけですよ。
牛尾教育長	学校のね、先生方とか、校長先生方とか、
参加者 < 在籍保護者 >	すみません、もう少しはっきり答えてください。
参加者 < 在籍保護者 >	やってるんですかって。
参加者 < 在籍保護者 >	質問に端的に答えてください。
参加者 < 在籍保護者 >	何をしてくれてるんですかって、子どもたちに。
牛尾教育長	十分にできなかったと思います。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、十分になってだから何かしてたから十分になんでしょう。じゃあ十分にできなかったかもしれないけど、何をしてくれたんですか。何かしてたから十分にしていなかったというわけでしょう。
牛尾教育長	実際に、
参加者 < 在籍保護者 >	何もしてなかったんですよ。

牛尾教育長	こちらから指導して、
参加者 < 在籍保護者 >	だから、何もしてなかったんですよ。十分にしてなかったんじゃないくて、してなかったですよ。してたんだったら、十分にの「十分に」が何だったか言ってください。子どもたちにしてあげたことを。
牛尾教育長	スクールカウンセラーとかですね、
参加者 < 在籍保護者 >	スクールカウンセラーで何をしてあげたんですか。
牛尾教育長	実際にそういう方々のことも対応できるでしょうし。
参加者 < 在籍保護者 >	だから、何をしてあげたんですか。どんなことをしてあげてるんですか。教育長は実際に学校に足を運んで、その子どもたちの気持ち聞いてあげたんですか。
牛尾教育長	それはやっていません。
参加者 < 在籍保護者 >	じゃ、何ができてるんですか。ほんでこのままですか。
牛尾教育長	学校の先生方に、
参加者 < 在籍保護者 >	それで、統合ですか。上っ面やめてください、いい加減、牛尾教育長。ほんまに全面対決になりますよ、そんなんやったら住民と教育委員会。もういい加減にせなあかんと思うよ。
参加者 < 在籍保護者 >	みんな帰りたいですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	市議の先生たちかってほんまに、先生らにどんどん頑張ってもらったと思う、ほんまに。変えてもらわなあかんわ、はっきり言って教育委員会、川西市の。腐ってる。建前なんかいないんですよ。あなたたちのプライドもいないんですよ。
参加者 < 地域住民 >	そこで書いてください。文書を。

参加者 < 在籍保護者 >	ほんまに子どものことをいうてみてくださいよ。
参加者 < 在籍保護者 >	撤回しますって、
参加者 < 在籍保護者 >	撤回を
参加者 < 在籍保護者 >	散々並べたでしょう。何してあげたんですか。スクールカウンセラーやったから子どもの何かケアがあったんですか。
参加者 < 在籍保護者 >	よくわかってる、わかってるいうんだったらちゃんとそういうこと書いてください。気持ちはわかってると。
参加者 < 在籍保護者 >	子どもの気持ちわかってくれてる、
参加者 < 地域住民 >	教育長、牛尾さん書いて、部長さんも書いて、全員書いて。残してくれないと、このまま帰ったら、そのままで終わりですわ。やりましたって。
参加者 < 在籍保護者 >	もう一回再保留しよかて言わなあかんやろ、帰ったら子どもに。また教育委員会統合言い出しとんで、子どもだまして。
参加者 < 地域住民 >	書いてください。
参加者 < 在籍保護者 >	白紙撤回って言わないと。
参加者 < 在籍保護者 >	自分らな、ほんまにな、はっきり言って他人事なんよ、申し訳ないけど。違う言うてはるけど、そうとしか思われへんねん。
参加者 < 地域住民 >	書いてもらえないんでしょうか。はっきりしてください。

参加者 < 在籍保護者 >	だから、じゃあ、さっきから言ってるけど、子どもに何してあげたん、ほんまに。陽明小はいいやん、ずっと言うてるけど何も変わらずできるわけやからいらんやん。今、学校が統合になるかもしれない不安になってる子どもたちの心のケアしてあげてくださいよってお願いしたよね。何してあげたん。
参加者 < 在籍保護者 >	これじゃあ、会議、終わりませんよ。
参加者 < 在籍保護者 >	何してあげたんですか。
参加者 < 在籍保護者 >	一言、言って一筆書いてもらってください。
参加者 < 在籍保護者 >	何してあげたか言ってくださいよ、木下部長。うちの子どもは何も持って帰って来てない。何かあったかって毎回聞いてるけど。何もしてくれてない。何してくれたん、子どもに。
参加者 < 地域住民 >	どうしてもあれでしたら、書かないとかいうようなあれでしたら市役所の総務のほうの人事課の皆さんに言ってこういうことですよって。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、おたくら教育委員会でしょう。トップでしょう。自分らの教育委員会として決定事項ですよって話を持ってきておたくらが決定権者やいうて来たわけでしょう、いい格好言うとったけど。じゃあ、ケア何したんやって聞いてんねん。教育委員会ってそもそも何のためにあんの、そんなら。自分らいい格好で子どものためとかいうてるけど何のためにやってんの。子どもを守るのために教育委員会の教育長と市長が同等の立場だったわけでしょう、今まで。それが傘下に入ったわけでしょう。でも、ほんまは立場同等でしょう、教育に関してやったら。ほんで子どものこと何考えてあげてるんですか。副市長がそんなこと言うたら教育委員長が「副市長、何を言ってるんですか」って言うのが普通じゃないのって言いたい。「私たちは子どもが一人になってもこの学校を守っていくために頑張っていこうという姿勢です」って言うてあげんのが普通じゃない。 そんな話はずして机上論的に適正人数がどうやこうやいうて、なんかそんな当たり前のこと言われたってわかっとるがな、あほじゃないから。当たり前の話を並べられても、ああそうですかって言われへんでしょう、はっきりいって。子どものことっていうんやったら、今日何回もいうてるようにケア何してあげたんって言うてるよね、去年から。何があったん、ケア。学校統合される子どもたちに何のケアしてあげてくれた。未だに学校統合かもしれないよっていってる子ど

中西総務調整室長 兼教育推進部参事	もたちに不安をあおらしたまま、心が不安なままに平等に勉強できない状況で、学問の自由ね、いわゆる平等性、これ平等ですか。 その状況によると思います。
参加者 <在籍保護者>	平等じゃないでしょう。何でそんな逃げ方すんの、そんな何ぼでも逃げれるやん。ケアは何をしたん。自分ら嘘っぱちな、これで子どもの一人でも自殺したらどうすんねや、この問題が浮上したことで。どうすんの。これも全部録音して、ちゃんと速記してちゃんと議事録起こしてや、これ。川西犯罪かて別に起こってるやんね。これ犯罪件数少ないやんね全国区で。学校も。低くないやんね犯罪件数、防犯件数。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	それは把握しておりません。
参加者 <在籍保護者>	ああ、そう。出てんねやで。そんな状態で、こんな変態が世の中をうごめいているようなね、この間もPTA会長さんがね、9歳の女の子を殺害しとったんやってね。ほな、こんだけ動く距離あんねん、雑木林もあるねん、そこにぱっと放り込まれてたら、かわいそうやねっていうて、他人事。ほんでスクールバス走らせとかいろんな話出てましたやん、いろんな保護者から。その話かって自分らのうやむやのまんまで何の回答もせず。この距離になったら勝手に市バス使ってよろしいやんみたいな。ほんで跡地だけこんなふうに使わしてもらいますわいうて。そんな好き放題できることなん、おたくらの考え方だけで。 だからね、今日もいろんな人来てはるし、今メンバーもある程度固定化されてきてるけど、ケアは何してあげたかだけみんなに言ってくださいよ、保護者の方に。ケア、心のケアは十分にしておいてくださいね、子どもたちは不安ですから、未だに学校無くなる、これ当面なくなれへんというてきたわけやん、それがまたこの話出てきて子どもにある程度言わなあかんわけやん。子どもまた浮上した話や。でも、そのことに関してあなたたち何のケアも学校にもケアしてないわけやん。ただ、どっちの肩も持つなみたいな話が回ってるような話がうわさでまわってきたりね、学校サイドに。校長にそう言うてんのか、教育委員会からどっちの立場にも立ったらあかんで言うてんのかしらんけど。でも、私からしたらそんな学校長は自分の学校を守るためやったら、自分の学校の立場を守るのが校長やと思うけど、私は。そんなプライドもなくやってる校長やったら、校長下りるべきやと思うねんけど、はっきり言うて。自分の学校を守る気ないんやったら。そんな守る気ない人間がその生徒を守ることとはでけへんわ。会社守る気ない社長が社員守れるわけないのと一緒でしょう。だから、おたくらに何回も言

	ってるけど、ケアだけ答えてください、それやったら。ケア何してあげたんですか、子どものこと考えてくれてるんでしょう。早く。いい格好言うんやったらそれだけ答えて帰ってくださいよ。子どものこと、子どものこと、教育の観点、学力レベルが別に川西市４位でしょう、算数と国語。
参加者 ＜在籍保護者＞	今週２５日に教育委員会の定例会があるんですよね、そのときに今回の説明会の報告をされると思うんです。
参加者 ＜在籍保護者＞	だからうそっぱちのことを報告すんのやめてよ。
参加者 ＜在籍保護者＞	私たちから白紙撤回を求められてるってことも含め、ぜひ報告していただきたいと思います。それを教育委員の４人のメンバーの方にもお伝えいただきますようお願いします。住民の声、正確に伝えてください。いろんな意見がありましたの一言では、すまないよう、すみませんように。
参加者 ＜在籍保護者＞	ケアだけ答えてよ。子どものことを思ってる人たちが、その不安になってる子どもたちに今してあげてるケアを答えてくださいよ。陽明はいいやん、もう何回も言ってるけど。何も変われへんから。その不安に陥らした子どもたちに何のケアしてあげたんか言ってよ、ええ格好言うてんと。あなたたち取り返しのつかないことやりだしてるんですよ。少子化はしゃあないでしょう、はっきり言って。世間一般も、少子化、少子化言うて、わあわあわあわあ騒いでるけど。しゃあないやんか、減っていったる現実。何でそんな後ろ向き発言にばかり耳傾けんのか分かれへんけど、世間は。そやけど、ＩＴや機械化が進んでて人がいらんいうね、いろんなことできてきてるわけやん。はっきり言ってコンピューター進んでいったんやから、役所なんか人数いらんようになってくるわけでしょう、はっきりいって。いろんなことがコンピューター化されていったるやん。そこに別に少子化になってことで、何が悪いん。戦後の後のベビーブームで子ども増やせて、だからベビーブームで増えただけのことでしょう、子どもも。どんどん増やせ増やせて。何が変わんねん、それ以上技術が上がってんねんから、一緒のことやろ。ただ、税収が減るからわあわあ言うてるわけでしょう。おたくら政治家とか、議員さんや市議員さんが。今まで使ってる分が足りへんようになってくるわけやからね、しわ寄せいくことがあかんから言うてるだけのことでしょう。だから、おたくらかって学校をどっかにせんと川西市の税収的にしんどくなってくるから減らさならしゃあないわけでしょう。違うの。
木下教育推進部長	我々の思ってるのはそうじゃない。我々の思ってるのは、やっぱり小さい集団で子どもたちを育てていくよりも、ある程度大きい集団のほうが特に高学年を見

	たときに最終的な社会に出たときに、まあちょっと交わってないというだけで、そういったものをやっぱり培ってっていうところで、やっぱり少ないよりも多いほうがいいだろう。だから、何も小規模校を否定してるんじゃないんですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	それは、一意見ですよ、それは教育委員会の意見でしょう。別に僕は少人数でもいいのよ。
木下教育推進部長	だから、それは相反する２つの意見があるのは当然承知しながら、
参加者 < 在籍保護者 >	でも、交わることないやんか。
木下教育推進部長	これは、だからそここのところをしっかり話を。でもどっちかとらないとだめじゃないですか、最終的には。
参加者 < 在籍保護者 >	いやでも、おたくら統合言うてきてんねんから、そんなん言うの決まってるやん。
木下教育推進部長	それはその
参加者 < 在籍保護者 >	一市民とあなたら権限を持って印鑑押せる人間との差や。
木下教育推進部長	それと、
参加者 < 在籍保護者 >	あなたは権力者でしょう。
木下教育推進部長	もうひとつは、いつそのね、
参加者 < 在籍保護者 >	権力振りかざして来んのやめろよ。
木下教育推進部長	いつそのね、統合っていう時期をもってくるのかっていうのが非常に大きな問題で、
参加者 < 在籍保護者 >	だから、それかって推移っていうか見えてるやん。３４年度にはもう見えてるわけやん。陽明小の全学年がね、推定だけなら言えへん言うてるけど、陽明小は

木下教育推進部長	全学年よ、ね。1クラスになってるわけでしょう。平成34年にはそうなるいうことやんか。遅かれ早かれ。 可能性があるという、
参加者 ＜在籍保護者＞	可能性があるというたら、全学年やから。1年生から6年生までが1クラスなわけでしょう。その可能性があるんやったらそうやわ。はっきり言ってそんなオブラートで包まんでも、そんなとこ。ほんなら問題は、陽明小学校はどうするかに問題があるわけでしょう、まず第一に。
参加者 ＜在籍保護者＞	もしもね、ほんとにそんなふうにたくさんの人数の子どものほうがいいというのだったら、こんな手順を作らずに今から説明していったらいいんですよ。たくさんの市民と話をしたらいいだけのことであってね。
参加者 ＜在籍保護者＞	この手順そのものが時期尚早です、この段階で。手順書が。だから、撤回してください。
参加者 ＜在籍保護者＞	人数多いほうが子どもたちも移動さすということが事故率も高なるわけでしょう。新名神もできる、車もふえてくる、今も工事車両いっぱい走ってる、ね、ダンプもいっぱい走ってる。ダンプの運転手、運転行儀悪いでしょう。いや、悪いんやん、ネクスコのあいつらだって勝手に走ってるけど。見てるよ、私かて毎回走んねんやから。ばって割り込んできたり、でも市かって、県か国か知らんけど、雇ってんのもね。反社会的勢力やととんかなって思いながらね。ようそんな川西市も走らすなと、公共工事に。川西市わかってるやろ、そんなこと。ダンプやとか。
参加者 ＜地域住民＞	一つ、お願いですけどね。今日の説明会を含めて、やはり陽明と緑台、一緒に説明会をやっていただきたいと。これからも話し合い等分けるんじゃなくて一緒にしたほうがグリーンハイツ全体のまとまりが非常にこうプラスになると思いますんで、お願いしたいと。 それと、もう一つね、本当に将来ね、ここが立派になっていくんか、それともゴーストタウンになっていくんか、わからないと思うんですけどね、ただね、今この緑台と陽明の勢いを見てますとね、やっぱり明るい方向が見えてくるんです。そこでね、単にどうなるかわからないではなくて、行政とか、政治はね、明確にこのまちはこういう方向でいくんだと。その一番やっぱりポイントになるのは教育だと思うんで、なんでもっと思うようなところでですね、ぜひ。というのはね、国によってね、子どものことをちゃんとやる、今はその、本当に子どもが増えてるんです。だから、私は日本全体をこれから見たときにやっぱり子ども

参加者 ＜在籍保護者＞	を徹底的に大事にしていく方向性というのは、日本全体で本当に考えてほしいなと、同時に川西もね、この阪神の中では非常にいい位置にあると思いますよ。だからそういう意味で今日は遅くまでどうも。よろしくお願いします。 みんな遅いですし、待ってはる人はいると思います。私たちも子どもが待ってるんですよ。でも、実際もう終わりたいでしょうけど、それには終われないということがあるんです。それはもう統合ありきでまず来られてるから、だから実際質問させてもらったとおり校区審議会でもう一回やったらいいんですよ。それを変えられへんから皆さんの仕事が続いていくわけですね。教育長、牛尾教育長、なぜ校区審議会をもう一回、この件に関してできないんでしょうか。委員の方も、コミュニティの代表の方ももう一回それをやるのが筋やないかと言うてはるんですよ。それやのにそれもしない。統合は決まってる、それで来てるからこういうことになるんですよ。
参加者 ＜在籍保護者＞	何か力かかってんの違うの、不都合なんでしょう、はっきり言って。
参加者 ＜在籍保護者＞	そこは今回ね市民に言われへんと、もうそこに戻しますと、その努力をしていますぐらいのことを言うてもらわんと夜中になりますよ。私は個人的に平岡さん来られてるので地域の住民を代表として、皆さん遅いんで帰られましたけど、私たちの思いを伝える役割として代表になってもらってるんですよ。何か今のこれまでの中でご意見とかそんなんを市議会議員の方に聞きたいんですけど。すみません。
平岡議員	ご指名があったんでお答えしなくちゃならないというところでお話しさせていただきますと、今回、手順が教育委員のほうで示されて議会のほうにもお話がありまして、今回教育委員会として地元というか各地区でね、お話をきちんとするというところで、どのような市民の方が意見を言うのかなというところで私は聞いてます。陽明小学校と緑台小学校からお話を聞かせていただきました。結論といたしましては、皆さんのお話を聞いている上で教育委員会の手順についての話は、住民にはここに来られてる方、あるいは陽明小学校に来られてる方の質疑等を聞かせていただく中では、参加した住民からは理解が得られなかったという結論であったと思います。もうそれ以上のものでもなくてそれ以下のものでもなくて、結論は得られなかったというところで止まっています。以上です。
参加者 ＜在籍保護者＞	福西さん、よろしいですか。

福西議員	すみません、遅くまでご苦労様です。ご指名をいただきました。あの保護者の方のお気持ちすごくわかるんです。白紙撤回ということがなぜもらえないのかなという思いもあって、なぜ言わないのかなという思いもあって板挟みというかそんな状態なんですけど、今日、話聞いてたら２年後のときの推計が実際２年後どうなってるかという話なので、今、今日、話聞いてると家がいっぱい建ってて若い人が住んでるというのは保護者の皆さん、ここに参加されてる皆さんも理解されてるし、担当のほうもわかってるので。ということはこの２年後ですね、その数字がふえてるんであれば統合は流れではないと思うんで。実質は白紙撤回なのかなと思うんですけど、そのへんが言われなから納得できないとはわかるんですけど。でも、２年後のときでまたそれは議論したらいいんじゃないかなと思うんですが、白紙撤回というところと言えないというのがわかんないし、それがほしいっていうのもなんか両方とも腑に落ちないっていうか、両方とも思いはわかるので。とりあえず今すぐ統合というんじゃないんで、とりあえずまた２年後でいいんじゃないかなと私は思いました。以上です。
参加者 ＜在籍保護者＞	心のケアだけ言ってよ。牛尾教育長、それを答えてよ。何してくれたかだけ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	まず、白紙撤回できない理由につきましては、一つは推計から実態をみていくことにしたんですが、現時点におきまして児童数の減少が下げ止まりでないというのが一つ。それともう一点が、統合によるメリット・デメリットを考えたときに、今、現時点において統合のほうのデメリットのほうが大きいというような確認ができていないというのが教育委員会として考えられる意見ということで、現時点におきまして教育委員会としては統合の方針は変わっていないというところでございます。
参加者 ＜在籍保護者＞	統合のときのデメリットが確認できない、そのデメリットがないと思ってるいうことですか。距離が遠なるとかってデメリットじゃないの。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	前の説明会、２回目の説明会でお示しさせてもらったように統合によるメリット、デメリット双方ございます。
参加者 ＜在籍保護者＞	いや、でもメリットは少ない、
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	現時点においては、教育委員会としてはメリットのほうが大きいと判断しているわけです。

参加者 <在籍保護者>	いや、だから、何個あんの、メリット何個挙げてんの。それも明確に出してるんじゃないくて、メリットは10個あるとか、せやけどデメリットは4つでしたとか。でも、自分ら教育委員会が思ってるメリットって、こっちの住民からしたらメリットって何って思うかもわからへん。その言葉だけでメリット、メリットって言うてるけど、何がメリットなん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今日はその話まではできなかったんですが、
参加者 <在籍保護者>	でも、それがわかった上で手順書でしょう。だから自分らはうそっぱちやねんて。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	統合しない場合のデメリット、大きなものが何があるか教育上何があるかというのをお伝えさせていただきます。
参加者 <在籍保護者>	さっきの多様性とかでしょう。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そうですね。
参加者 <在籍保護者>	そなんわかりきったことをやったらどこ見ても書いてんねんや、おたくらに聞かんでもホームページ開いただけで。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	おっしゃられるように文部科学省の、
参加者 <在籍保護者>	でも、少人数制になって良かったっていうことが書かれてるのはいっぱいあるやん。だからそれは平行線でしょう。どっちにも偏られへんわけやからやってみんと。少人数制を進めたからあかんようになったかもわからへんし、統合したことによってあかんようになるかもわからへん。これやってみなわからへんことやから、はっきり言って。教育委員会の人もそう言うてるかもしれんけど。どっちともとられへんわけでしょう。違うわけやから。ただ、住民からしたら何で多いほうがいかなあかんねんいう話をしてるわけやから。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	メリット、デメリットで

参加者 ＜在籍保護者＞	巻き込むのをやめてくれって言うてんねん。巻き込まんといってください、じゃ。陽明小で多分話し合ったらいいやないですか、それやったら。何で緑小巻き込むのって言うてんねん。ほんでおたくらはさっきも心のケア答えてないやん、教育長。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そちらから答えます。
参加者 ＜在籍保護者＞	何してあげたん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	これまでの対応ですが、学校のほうから特に統合等に関して、子どもの、統合に関してということではないんですが、子どもの状況が悪いというようなことは聞いておりませんので、具体的に、
参加者 ＜在籍保護者＞	上っ面で言うてるからでしょう。ほなあげさしたらいいんですか。学校にそういうアンケートを流すように学校から出させてくださいよ。そんなこと言うんやったら。自分らみたいに片方の意見を担ぐようなことを言ったらあかんみたいなこと書いたりね、学校の校区の変更かって去年の詐欺みたいな書類送ったの知ってる？ 陽明小行きたかったらどうぞみたいな。その時点で緑小つぶしとったやつ。おたくそれ知ってて話してます。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	それは、校区外就学希望の、
参加者 ＜在籍保護者＞	あの段階で決定でもないのに決定したかのように緑小つぶしてもう話進めとったやんか。あんなだけは学校から配らせてるけど、じゃなんでそんな意見吸い上げの紙を学校に紙を配らせへんの。誰からじゃあそういう意見を聞いたか言うてよ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	学校長から、
参加者 ＜在籍保護者＞	学校長は、じゃあ誰からそれを聞いたん、その意見は。おれは学校長としゃべってないよ。そういう不透明な言葉はやめようよ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	今までは、そういう状況だったんですが、今日、改めてご意見をいただきましたので、学校長のほうにもう一度子どもの状況を聞いて確認したいと思います。

参加者 < 在籍保護者 >	いや、でも P T A の人たちには、片棒を担ぐようなことをしてはいけませんよって、中立性の話をしなあきませんよみたいなこと言ってるわけでしょう、 P T A は。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	すみません、教育委員会から P T A のかたに、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、でも学校が促している以上は P T A の人に聞いている可能性が高いわけやないですか、学校長も。一番身近やから。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そこはすみません、ちょっと確認できないので、
参加者 < 在籍保護者 >	そういうのを確認でけへんというのがいい加減やんか、丸投げやん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	教育委員会から、
参加者 < 在籍保護者 >	それやったら教育委員会から学校長に対して保護者に今の子どもたちの状況についてのアンケートをもっと出してくれたらいいん違うの。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	どういう形になるかわかりませんが、学校に改めて子どもたちの状況は確認いたします。
参加者 < 在籍保護者 >	学校にじゃないやん、誰に聞いたかが不透明やんか。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	学校を通じて確認いたします。
参加者 < 在籍保護者 >	じゃあ、誰に。校長の意見なんか聞いたって、校長は全員としゃべったの。何千人、何万人と会話するわけじゃないでしょう。だから、誰がとかが不透明や言うてんねん。何千人、何万人おるんやったらそりゃ聞くのがね難しいやろと思うけど、生徒数二百何人でしょう。聞くの難しいん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	それは教育委員会が個々の子どもたちに確認するということですか。

参加者 < 在籍保護者 >	心のケアにしても、してあげるというかこれから考えていくということ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	まずは、子どもたちの状況を確認いたします。
参加者 < 在籍保護者 >	ほんなら今、俺が言うた意見は直に保護者として言うてんねんけど、これ去年も言うたんやけど、じゃ今まで放ったらかしにしてたってだけのこと。ああ、あいつのとこの子どもはうるさい親父のがきやから放っとけいうて教育長は怒ってたから放ってたの。でも、教育は平等やないやん。理屈的かしらんけど、おたくらはおかしいかって言うてんねん。教育は平等じゃないとだめなんでしょう。うちの子平等ですか。ほんでおれ去年のときに子どもが不安に思ってたんねん、だから学校サイドに対してもそうやし、心のケアは何かしらの形でしてあげないとだめやと思うので心のケアしてあげてくださいねってお願いしたんやんか。でも何もしてなかったやんか。何もしてないでしょう、これから考えるみたいなこと言うてるけど今までその話出てから放ったらかしにしてるわけやんか。これから聞いていきますって。そやけど、手順だけは決まってるっておかしくないですか。ほんで子どものこと一番に考えるのが教育委員会なんですか。あなたらのやりたいこと考えるのが教育委員会じゃないんですか、あなたたちの考えることは。子どものための教育じゃないんですか、教育委員会。違うの。俺、学ないからわからへんけど。でも、そういうきれいごとはいらんのよね。きれいごと大嫌いやから、うそっぱちの。そんな人間何人も見てるから、きれいごと並べるやつ。でも、実際黒いねん人間ね。あなたたちがって言ってるんじゃないですよ。でも、私は去年お願いしたわけやんか。じゃ、うちのがきは放ったらかしでええということやね。学校行かなくなってもええということやね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そういうことではなくて。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、そういうことでしょう。じゃ何をしてくれたん。これからっておかしいやん、去年から出てる話なんやから。何を対策を練ってたん、まずその手順作る前にそういうことも考えて手順とか変えていくのが普通じゃないのかな。なんで自分ら統合ありきの話ばかり手順で考えて今いる子どもたちの心のケアはこうしていこうとか考えてないの。ましてや去年の8月にね、6月以降からじゃ何そのケアの取り組みはこの5月まで何もしてない。うそっぱちでしょう、だから言ってること。今のところはないから関係ないやん言うてるだけでしょ。でも不安な気持ちって一緒や言うてるやん。

木下教育推進部長	教育委員会が直接的にかかわってない一つの学校という組織の中で教育委員会という組織の中も含めてやはり学校でいうたら担任を中心であったり、子どもらのケアというのをしていってるわけですね。
参加者 < 在籍保護者 >	そんなん当たり前やんか。
木下教育推進部長	していくわけで、当たり前の毎日のケアの中で、もしそういうことで悩んでる子がいたとするなら、当然それは報告として我々にも上がってくるわけで、
参加者 < 在籍保護者 >	それ担任言うたやん、そんなこと。担任にもそんなこと言うないうてるようなことを聞こえてきたん、風のうわさで。統合の話なんか触れるなよって担任にいうてるようなことに、そんなことすら担任が触れてないん違うの、別に。
参加者 < 在籍保護者 >	うちの子どもは聞いてます。
参加者 < 在籍保護者 >	そんなこと担任がいちいち統合で悩んでのって聞いてるかな。そんなこと促したらあかん言うてんのに、担任に対して。聞こえてるんやで、保護者にそういうこと言われてるいうて。だから自分ら表面上で何がつくりたいの、今は。上っ面はもういらないですよ、はっきり言うて、汚い。だからさっきから言うてるやん、平等って言ったのに、じゃうちの子は不安なまま学力そんな高ないかもしれんよ、そやけどおれよりはるかに賢いと思う、勉強してたからね。そやけど平等じゃないと思うねん、そんな不安抱えたまんまで。そんで平等って言われたところで自分らきれいごと違うん。それは仕方ないから、じゃそっちは犠牲で、ときには犠牲もありだっという考え方ですか。そやのに、平等っていう言葉を口に出したんですか。だからこんな無理やって、はっきり言って、だから一旦白紙にしないと収まるわけがないやんか、そのまま自分らだましに来たと思えへんから、この今残ってるメンバーあと6人。
参加者 < 在籍保護者 >	今回この話し合いはこういう状況であったっていうことを定例会のほうでどう報告されるのかってことが少し不安なんですけど。
参加者 < 在籍保護者 >	副市長も市長も来たらええねん。
参加者 < 在籍保護者 >	ありのままをお伝えしていただいたらなと思って。住民の声を。

参加者 < 在籍保護者 >	副市長もわかっててそういう統合や言うてはんの。ええ格好いうてはるけど。議会聞きに行ったらこんなんして座とったやん。代表で議会見に行とったけど、市長もこんなんやったで、偉そうに座って。
参加者 < 地域住民 >	終わらないようですね、終われないです。委員協議会でこれは決まったことだと。でもそれ住民たちにどう思ってるのか、ここはリセットやというふうに市議会の方から言っていたいただきましたけれども、今度この話を受けて教育委員会はどういうふうに協議会に報告するんですか。この現状をどんなふうに報告するおつもりなのか教えてください。
参加者 < 在籍保護者 >	本当に板挟みになっていらっしゃると感じるんですけれども、私たちの声も吸い上げてください。
参加者 < 在籍保護者 >	議事の人、ちゃんと書いてくれてはるやろね、それ。それうそなく全部載せてくださいよ。自分らの都合のいいことだけはしょって議事をホームページに出すんじゃなくて、今日言われてるありのままを全部出してくださいよ。だから心のケアとかの話、何回も言うてますけど、何してあげてくれてるんですか。何をしてあげてくれたんですか、課長。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	先ほど申しましたように、担任から、
参加者 < 在籍保護者 >	だからそれってしてないやん。じゃあ何でうちの子がなんでそれ言うの。言いやすいからじゃないの。担任の先生って、じゃあ１００％子どもたちが信用して１００％話できる人たちなん。担任の先生に子どもが「僕は不安なんだよ先生って」、ちゃんと言える先生が揃ってんの。痴漢するような先生もおるぐらいやから、捕まっとるぐらい。そんだけ信用できる先生たちなん。子どもたちが心開いて１００％心開いてるから担任にそんなこと言えるんやね。じゃなんでうちの子はなんで俺に言うて来るん。１００％心開いてるから。その保護者が直にこういう場を設けていただいてるから教育長に直に言ったわけでしょう。そういう声が上がってきたらそうしますわって声出したやんか。私だけじゃなくてほかの人も言うとったやんか。何でおたくら他人事みたいなこと言うてんの。何にもしてなかったって言うたらええやん。何にもしてないねんから、子どものために。 おたくらのポイントを稼ぎのために動いてますって言ったらええやん。文科省の打ち出してるとおりに私たちは今動いててこうしたいんですわって言うたらええやん、はっきりと。ほんでここはまちづくりのために何らかの駅まで近くて、何らかの好立地やから使えますわって言ったらええやん。それが川西市としての目的ですわって言ったらええやん。そうとしか感じへんもん。何にもしてあげて

	ないでしょう。
牛尾教育長	本当にですね、校長先生を初め、担任の先生方に声をかけてみます。
参加者 < 在籍保護者 >	いやだから私さっきから意見言うてるやん。
牛尾教育長	うちも指導主事とかね、教育相談センターの、
参加者 < 在籍保護者 >	校長以下ってこと、保護者は。
牛尾教育長	いえ、そういうことではなくてお願いすること多かったと思います。現実そういう状況の中でもう一遍再検討していこうということで、時間がかかりますけども、
参加者 < 在籍保護者 >	いやいや、時間かける問題やないやん。
牛尾教育長	確かに教職員の方々が努力もあってね、子どもたちとのかかわりの中で、
参加者 < 在籍保護者 >	教職員は死ぬまで子どもの面倒見てくれんのかいや。
牛尾教育長	担任として、または、
参加者 < 在籍保護者 >	じゃあ、言うてるやん、死ぬまで子どもの面倒見たってくれんのかって。
牛尾教育長	指導主事として派遣することもありますし、教育相談体制もあったわけですから、それについては現場に出て、
参加者 < 在籍保護者 >	小学校からのお受験で公立が人気なくなってきたのが事実でしょうが、はっきり言って。私立小学校に公立から流れてんのも事実やんか。公立人気下がってきたんのも事実でしょう、これ。私立は増えてるやんかでも逆に。それも実態でしょう。自分らにうそ言われへんかなって、俺もあほながらに調べてるよ、いろんなこと。だから子どものためって言われて教育委員会として私は保護者として言うたわけやんか。それも直に言うたで、課長さん、何回も言うてるけど、そ

	れは担任とか部長も言ったけど、私自分らに直接言ってるやん、だからさっきから言ってる一うるさいおっさんのがきは放っとけいうことですかっていうて聞いてんねん。そんな一人の子どものために平等なんか言われへんていうことですか。子どもたちかって去年も反対のこと来て言うtotったやんか、「学校統合するのやめてください」、自分ら子どもらにそれ言わせたやんか。子どもらの声も聞いたやん、直に。聞いてないような顔してるけど。ほんでケアいらんて判断したわけでしょう。ほんまに自分ら心あるんかな。優しさを感じへんねんけど、見とっても。仕事上は感じて。もうちょっと日本人として心のほうをちゃんとしたほうがいいと思うんやけどね。私が言えた義理じゃないか知らんけどね、ちょっと腐ってると思うよ、俺は。川西市の考え方。
参加者 ＜在籍保護者＞	この手順が出てくるのであれば教育委員会が子どもを増やすためにどういう取り組みをしたのが当然同時に報告される、あるいは子どものケアということをしたかということが当然同時に報告されるのだと思っていました。それがやはりそちらからはなかったからほんとおっしゃるとおり怒っているんです。やっぱり間違っています、この段階で結論を出すのは。もっとすべきことがあったし、手順を出さなくても今の話し合いはできました。時期尚早です、本当に。
参加者 ＜在籍保護者＞	ほんま地域住民無視やで、自分ら、保護者。
参加者 ＜在籍保護者＞	前回、怒っていたのも全く意見を聞く気がなかったから怒っていたんでしょう。今回の手順に関しても全く意見を聞く気がないからやっぱり怒っているんです。
参加者 ＜在籍保護者＞	ほんま決めんとしてほしい、勝手に。それやったら自分らほんまに学校区内に自分ら全員引っ越してきてから物言いや。もう、一回引っ越しておいでや。
参加者 ＜地域住民＞	これはね、もう終わらないです、本当に。しょうがない、終わらないです。
参加者 ＜在籍保護者＞	子どもをまず、子どもいてはる人多いでしょう。緑台小学校に通わしいや、まず。
参加者 ＜在籍保護者＞	個人的にどういうふうに使われたのか、別に立場は結構ですよ、立場は色々ありでしょうけど。これを一体どんなふうに使われたかの感想をちょっと皆さん一人ずつ聞かせてください。それでお開きにしたらどうですか。

参加者 < 地域住民 >	感想を言うてはるんですが、教育長さんからどうですか。
参加者 < 在籍保護者 >	教育長さんどうぞ。
平岡議員	そんなんそれぞれ答えられるか。
参加者 < 地域住民 >	答えにくいかな、やっぱり。感想は無理か、
参加者 < 在籍保護者 >	飛ばされるもんね、また。
参加者 < 在籍保護者 >	私らの気持ちとしては白紙撤回を強く望んでますから、これは一回引き戻すことが一番ですよ。そしたら収まるんですよ、陽明も、緑台も、保護者の方、そして子どもの心もケアをしなくて良くなるんですよ。一番に子どものことを考えてあげて、今この小さいときの心の痛みは一生大きくなっても続きますよ。おとなになっても続きますよ、大事なときなんです、小学校のころっていうのは。それがわかってないと思います。
参加者 < 在籍保護者 >	今日ね、手順を案にしてみよう、
参加者 < 在籍保護者 >	さっき案言うたやん。
参加者 < 在籍保護者 >	変えてほしかったです。もうこれで出されると決定事項みたいな形でみんなに回ってしまうのが怖いです。（案）というふうに、予算書みたいな形で案にしてみたら良かったです。
参加者 < 在籍保護者 >	これ決定なわけですか。何回もこれ言うてる、案や言うたり決定や言うたり。検討で盛り込むことはできるんやったら決定じゃないから手順作成中でええんじゃないですか。
参加者 < 在籍保護者 >	これ持ち帰ってどのように、

参加者 < 在籍保護者 >	すみません、多田グリーンハイツ地区と清和台地区って書いてありますけど、今回この出してもらった紙によると、先ほど言ってましたけど、緑小はこれならへんのですね。平成34年度、単学級ならへんのやから対象からはずしてもらわなあかんのですわ。そしたらここの表題に多田グリーンハイツ地区って入ってんのもおかしいし、それを川西市全部の標準にするんやったら一個一個の小学校でこの配置の適正化に関する手順の説明会をせんとあかんですよ。それわかりますか。僕、間違ったこと言うてますか。何で緑台小学校で今日やってるのかもわからへんし、陽明小でやるのはわかります、少なくなるんですから。でも、川西市全部がそういうふうな基準でいくんやしたら同じように全ての小学校でこういうことになったときには話し合い始めますよっていうことを言うてもらわんと。こっちがターゲットにされてるんですよ。ほんでまた言い方、表現悪いですけど銃を突きつけられたような形でまた過ごさなあかんのですよ。その辺、ちょっとわかってもえたら。
参加者 < 在籍保護者 >	2年後なんかなとか、5年後なんかなという気持ちのまんまで生活してる親の気持ちってわかってます、ほんま。一人ひとり。うちさっきから言うてるやんか、今5年生がおって、今1年生がおって、今まだ2歳児がある。国に貢献してるわけやんか、少子化いうてる中3人もおるやんか。ね、自分らありがとうございまして言いになあかんぐらいやわ、はっきり言うて、少子化少子化言うてんねんから。そんなんして今教育水準があって親たちがこうやて皆真剣に考えてるから学力レベル川西市高いわけでしょう、このエリアだって。だから、こんな放ったらかしとったら学力レベルなんか上がらへんわけやんか。だから今言うてる統合ってこれ手順とかあなたたち決定事項を持ってきすぎなんですよ、住民との説明会とか言うてながら、毎回決定したことを持ってくるわけでしょう。何で前段階がないの、毎回言うてるように。
参加者 < 在籍保護者 >	議員さんもおっしゃってたのが、言葉は丁寧だけれども、それは押しつけに過ぎないと。
参加者 < 在籍保護者 >	粗い、やり方が。もっと何回もさっきから言うてるけど、話し合って話し合って手順ができたものを議員、市議の人らに当時こんな話になりましたわとか言うんやったらわかるけど、なんでそんなに勝手に手順つくって、勝手にそういうことを公表して、勝手にホームページにも載つけて、あたかもこういうふうの流れていきますよみたいに、またすんのって言うてんねん。決定事項のときもそうやん、統廃合何何小、緑台小学校廃校いうて。ウィキペディアにも廃校って書かれたまんまや、あれ。もう印象めちゃくちゃ悪いままやんか、はっきり言うて。あなたたちがやったことで。表に出す段階でもないのに決定ってやったりとか。ほんで今回のこの手順を角の人は悪気ないかもわからへんけど、案や言うてみた

	り、差し替えできるとか、検討中って言うたり。でもこっちでは検討中ではなく決定だによって言われたり。これも録音されてるからはっきり言うて言うてることちぐはぐなことわかるわけでしょう。でも、言い方が悪かったってまた言いかえるわけでしょう。聞き違いが悪かったら聞き取り方が悪かった、言い方が悪かったんですかねって、言ってまたフォロー入ってはったけど。だから、そやけど後からこのことを変えられるんですよやったら、まずみんなと話し合ってから手順つくって出したらいいいんじゃないのって。なんであなたたちが決めたことを先行さすのって毎回言うてんの。
参加者 < 在籍保護者 >	それは、ほんまにどうなんですか、教育長。今のことをちゃんと伝えて、
参加者 < 在籍保護者 >	何ですぐ自分たちで決めんのかな。そのうえで地域住民と話し合ったってされてるけど。決めたこと話し合ってもしゃあないやんか。あんたらが決めてきてることやんか。そんなある程度決めてきたことを話し合いさせられてもしゃあないわけやから。話し合いってというのは決めてから決めたことを、いろんなことを話して建設的な話して手順作るものじゃないの。いや私は民間におったからそういうときはそういう考え方で話進めとったんやけどね。だから公務員さんはそうじゃないんかも知らんけど。
牛尾教育長	遅くなりましてですね、確かにですね、前回からね、第1回からずっと当時話し合いをしてきて住民の方とか保護者の意見を聞いてそういう状況の中と児童数の状況と地域の実態というのが一部分かったわけです。その段階で最検討していく、
参加者 < 在籍保護者 >	だから白紙って言うたらいいやんか。
牛尾教育長	再検討していく中で意見を踏まえて、それまでの意見を聞いたことを踏まえて再検討しようということでしたよ。その段階で、そこで実際には当時の推計ではなくて目の前に単学級の学年がずっと続くような状況が来たらこれはよくないなっていう、
参加者 < 在籍保護者 >	それはだから住民と話したらええやんか。
牛尾教育長	どちらにも関係あります。

参加者 < 在籍保護者 >	ないやんか、今は。今のとこないやん、
牛尾教育長	今のことです。小学校ですからね。緑台中学校区の2つの小学校ですからね、
参加者 < 在籍保護者 >	何でそんな巻き込んだままにしとくん、
牛尾教育長	その段階で手順を作成して、時期が来たときには一緒に検討していこうと、いきましようということで手順を提示させてもらったんです。
参加者 < 在籍保護者 >	迷惑です、迷惑です。だってケアもしてない人間がそんなこと言うのは迷惑です。遅くなるもなにもあなたがね、ずっと遅くまで、遅くなったって言うてるけど、大事なことから2時でも3時でも明日の朝でもええよ、やっとなんか。あんたらみたいに時間で動いてないって前にも言ったよ。生活や俺らの。あんたらは仕事や。俺らはうちの子や、時間関係ないねん。どうでもいいねん、時間時間ってさっきから時間、時間言いおったけど、時間がおしてる言うて。それやったら来るなよ、おまえ。時間でやってんの違うねん、こっち。おまえ仕事かしらんけど。そういうの違うねん、地域説明会って。時間で話すもんか。ほんで貴重な意見、マイクやって前に来させたらいいやん、前詰めてくださいって。違いまっか。聞こえへんねやったらもっと前みんな来て座ったらいいやん。前なんぼでもあいとんねやから。
参加者 < 在籍保護者 >	輪になりましょうか、椅子持ってきて。
参加者 < 在籍保護者 >	違います。何時でもおれるから、ケアもしてなかったって言ってよ。ケアしてなかったでしょう。担任からも校長からも意見上がってないって言われたけど、私意見言いましたよね。何人かの保護者の方も子どもたちがそういうふうに不安に思ってますって意見去年聞いてましたよね。だから都合悪いから3回も4回も議事消したんでしょう。消してるやんか。そういう意見出てましたよ、はっきり言うて。自分らそんだけ、おたく眼鏡かけた方、名前申し訳ないけど、2番目の方いてはった、聞いてはったよね。そこで自分聞いてないっていうなら人として疑うわ、自分ら。代表として来るな、ここに。それやったら。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	当時意見を聞いていないということではございません。

参加者 < 在籍保護者 >	ほな何ですか。聞いたけどやってないってことですか。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	結果的に個別の、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、個別じゃないやん。何人かの保護者が言うてたやん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	結果的に個別のというか、
参加者 < 在籍保護者 >	校長、担任が言うてきてなかったらやってなかったって言うたやん。地域住民説明会って集めてあなたたち貴重な時間で集まっていたいてありがとうございますって言うてたけど、そなして出た意見を流したってことでしょう、じゃあ。そういうケアもしてあげてくださいねって保護者たち言いましたよね。在学生たちの保護者たちが。流してるんですよ、じゃあ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	結果的にそのケアについて、
参加者 < 在籍保護者 >	いやだから、しなかったってことですよね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	そういうふうに受け取られるのであれば、
参加者 < 在籍保護者 >	受け取られるって、じゃあ言うけど、俺理屈過ぎる。どう受け取りゃいいの。そう受け取られたらって、なんかおたくは俺の考え方が悪いみたいな言い方してるけど、おたく正しいみたいな。考え方は色々やっていう言い方やけど。何がどう間違ってるからそんな言い方になんの、ほんなら。そんな上から言われたかって。ほな話はっきりつけようや、それ。そんな上から目線でおまえに言われる筋合いないわ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	流したということではなくて、結果的にそこのケアには至らなかったというふうに考えています。

参加者 < 在籍保護者 >	個々のケアって、ほな今帰って親父今日も遅いわけでしょう、帰んのが、家にね。どうやったんお父さんっていうわけやんか。いやまたこんな話教育委員会が話し出してるでって。ええ、また、みたいなわけよ。これでほんまに俺去年言うたように行きたないわ言うたわけよ。陽明の子らと一緒に行くの嫌やって言うたって。それも意見として言ったやん。ほかの子どもたちも来てマイク握って子どもたちの意見も教育長とか聞いたわけやん。おたくはいてないけどね。ほんでそれもそんな話はって流すん。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	ですので、今までは結果的に個別ケアというのはなかったんですが、できてないんですが、
参加者 < 在籍保護者 >	いや、個別というか大々的にせんとこんなんいつまでもずるずる白紙にせんと続くことでしょって言うてるわけやん。これもまた2年後、仮にもね、部長もさっきから説明してくれてる2年後じゃないかもしれんよとは言ってくれてるけど、信用できへんわけやんか、俺らははっきり言うて。だっておたくら陽明小にするととも言えへんわけやんか。俺からしたら陽明小学校を廃校にするなんか絶対に自分の口が裂けてもよう言わんわ、こんなん。大反対受けると思いますわ、直前まで言わんようにせな。おまえら緑台小学校潰す言うたってやんけって向こうが怒り出すのわかってるはずやから。次こんなん言えるわけないでしょう、向こうにかって。向こうの人らはこっちが潰れる思って、陽明つぶれへんで、緑台小学校潰れんねんて、みたいなことをぼんぼんぼんぼん回しはったわけやんか。ほんで保護者同士がいがみ合っても、とか言うてるけど、いがみ合うに決まってるやんか、そんなん。自分らやっぱり地域潰しもしてるんですよって言うてんねん何回も。 ほんで心のことは、とかいろんなこと言うてるけど、心のケアじゃ何してたのって何回も言っても個別の意見はって、個別じゃないやん。それは保護者さんが言ってたって言うてるやんか、保護者に、俺だけじゃない言うてるねん。ほんでその子どもは平等な学習を受けれてるって言えるんですかって質問してるんです。心が不安定な状態のままで平等なんですか。向こう何も陽明小学校の子ら何も考えんと、あいつら勝手に来よるからって思うとったらしいねん。緑小の子らは、5年生、6年生になったら後2年ぐらいで卒業やなっていうことになるかもわかれへんやろ。今の1年生ね、勝手に操作されて単学級になってしまった2年生、そんな子たちってどんな気持ちで今おらなあかんのかな、ほんまに。3年後にじゃ、あっちまでいかなあかんのかな、4年生になったらあっちなのかな。そやのに校歌は歌わすん。とりあえず私は子どもたちの教育にそれはよくないから一旦消すべきじゃないんかっていうことが言いたいわけよ。でも、あなたたちは自分たちのプライドがあつたりで話してるわけやんか毎回統合ありきで。じゃ、子どもたちのことを考えたら統合のほうがいいって言ったわりにはケアしてない

参加者 < 在籍保護者 >	わけでしょう。理屈が通れへんな、もう。いや、理屈が通れへんわ、あんたら統合したいだけで。 統合ありきの考え方を一旦横に置かん限り、この話し合いってというのは成り立たへんのですよ、教育長。
参加者 < 在籍保護者 >	いや、無理ですよ絶対に。いや、ほんで無理や言うとってもな、またあなたら押しきったらできる思うよ。印鑑あんたら持ってるわけやから。あなたたちがね、決定権者はあんたらやからね、いうたらおかしいけど。その代わり裁判にはなるやろね。こんなん推し進めてるということの今までのことも残っていったるわけやから。あなたらが謝罪したにもかかわらずビデオもあるわけやから。裁判にはなるでしょう、当然。そういう推し進め方したわけやから。私も当然それはしていく気でおるしね。そんな推し進めされ方するんやったら、それしかないわけやから、日本は法治国家やから。そんな行政の好き勝手できるような行政ってないよ。何回も言うてるけど、住民あつての市役所です。市役所あつての住民違うやろ、勘違いしてもらったら困るのは。教育委員会も子どもがあつての教育委員会ですよ。勘違いしたらあきませんよ、おたくら。何が教育委員会のプライドが潰されたみたいな意見が出とったってどんな話やねん。だから、子どものことを考えてないからケアできてへんかったわけでしょう。ほなうちの子は何回も言ってるように今までケアも無理、これからのケアも、今日は一応聞いたけど考えときまっさいことやね。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事 参加者 < 在籍保護者 >	心のケアについては、 じゃ、何ができるの、それ。
中西総務調整室長 兼教育推進部参事 参加者 < 在籍保護者 > 参加者 < 在籍保護者 >	どういう形がいいのかっていうのは検討させていただきます。 じゃあ、子どもたちには無くなるかもわからないけど今は信用して決まるまで無視して遊んどきなさい、勉強しときなさいって言うの。そんなケア無理でしょう。 だから、子どもたちに、

参加者 < 在籍保護者 >	自分たちは子どものこと考えてない、絶対に。
参加者 < 在籍保護者 >	親としては少なくとも子どもたちのケアにならんのですよ。
参加者 < 在籍保護者 >	ほんまに自分の子ども行かしてみいな。ほんまに毎朝 5 0 分山道登らして学校行かしてみいな、夏場に。行かせれます、これ去年も出た話やけど。ほんで教育委員会に聞いたら駅から 1 回だけ歩きましたって。1 回違うねん、子どもたちが歩くのは。雨の日もあんなんで、台風でも警報が出ん限りは雨が降ってようが風が強かろうが行かなあかんねん。そんな距離行ける、ここ、どんな田舎、俺引っ越して来たんかなって思うわ。前も言うたけど私、もともと伊丹やった。川西行く言うたけど山やな思いながらも来たわけでしょう。ましてやそんな距離子どもが学校まで歩いて行かなあかんと思うたら、どんな田舎来たんかなって思うよ、はっきり言って、ほんまに。あなたたちはそういうふうにしたいわけでしょう。ほんで、まちづくりやって、キセラやって訳わからんことに金投下してるわけでしょう。知り合いの土建屋使ってはるのか知らんけど。もういい加減にせなあかんと思うわ、はっきり言うて。固定の企業使うのもそうやし、市の行政も。安いとこなんてなんぼでもあるわけやし。ほんでこの施設利用かっておかしいよ、はっきり言って。どっちが資産性高いかってどう考えても、私は不動産に携わってる人間やから、資産性にだって駅近のほうが高いに決まってるやんか。ましてや、若い世代が学校に行かす子どもたちがおる、5 0 分かかかる通学圏内に誰が引っ越すのん。うちの子どもはちょうどいいわ、足腰鍛えるために 5 0 分歩かそかっていう親いてる。いてませんよ、そんなん。 ほなこっち側の人間からしたら、今でも 2 5 万ぐらいの相場でしょう。1 0 万台になってくるよ、坪。1 0 万の開き出てくるわけでしょう。自分ら地域住民にそんな差も説明してんの。学校行ってる人間だけの問題じゃないやん。これが今後売れにくくなってる少子化やいうてる不動産売れにくくなってるわけでしょう。資産価値を下げるわけですよ。ほんで固定資産税下げられへんで、都市計画税、ほんまやったらもっと下げなあかんやんあれかって。税収下げたくないからあれ下げへんわけでしょう、市も。そういうからくりがいっぱいあるわけやんか、この世の中には。だから、時価の相場と今の固定資産税の評価額より下場で不動産動いてるわけでしょう。何で市税のほうが高いの、ほんなら。だから、あなたたちは地域破壊をしに来てんねん、はっきり言って。